

＜株式会社エフエム東京 第386回放送番組審議会＞

1. 開催年月日:平成 24 年 3 月 6 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 7 名(社外7名 社内 0 名)

◇出席予定委員(4 名)

青 池 慎 一 委員長 内 館 牧 子 委員
香 山 リカ 委員 西 田 善 太 委員

◇欠席委員(3 名)

横 森 美 奈 子 副委員長
渡 辺 貞 夫 委員
秋 元 康 委員

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役
石 井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
小 林 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森 田 編成制作局局次長 兼 編成部長

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 2 番組 ダイジェスト(約 15 分)

＜1＞ 「中西哲生のクロノス」 2012 年 3 月 5 日(月)

＜2＞ 「タイムライン」特集企画 <原発・放射能に関する16の不都合な真実>
2012 年 3 月 5 日(月)～8 日間

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎東日本大震災発生から1年をむかえる3月5日(月)からの放送について

「ヒューマンコンシャス～生命(いのち)を愛し、つながる心～」を理念に掲げる TOKYO FM では、震災直後から「LOVE&HOPE」というテーマを掲げ、年間を通し、様々な震災の現状と、復興支援のメッセージを全国のリスナーへ届け続けてきました。

そして、東日本大震災発生から1年をむかえる3月5日(月)からは、さまざまな番組でこの「LOVE&HOPE」をテーマに放送しています。

ラジオを“心のライフライン”ととらえ、これからも、被災者の見えない思いを集めて、寄り添い、届ける放送をお届けします。

※2012年3月5日(月)～3月11日(日) 放送概要 : 別紙添付

◎4月番組改編について

東日本大震災から1年が経過する中、原発事故による放射能問題、世界的な不況と就職難、逆ピラミッド社会での年金不安など、ますます展望を失いつつある社会状況に対する不安感が蔓延しています。そんな2012年において、目だたて語られるようになってきているのは、人間同士の絆であり、日本人本来の誇るべき精神性、底力といったことについての知見ではないでしょうか。

2005年より「ヒューマン・コンシャス～いのちを愛しつながる心」をステーション・キャンペーンテーマとする TOKYO FM は、そんな時代環境の中、全時間帯、特に課題である平日ワイド番組について、より一層のやさしさと発見、共感を感じていただける内容を目指すべく企画・演出の強化を図ってまいります。

それと同時に手法論については、音声放送本来の表現手法の改善、追求はもちろんですが、加えてこれまでも取り組んできたインターネットメディアとの連携融合の更なる強化、特に Facebook、mixi、Twitter などのソーシャルメディア、新たな聴取端末であるスマートフォン、タブレットでの連携展開強化を目指して取り組んでまいります。

以上の基本方針に沿いながら、特に大枠改編を行うのは、平日午前帯のワイドベルト、「ブルー・オーシャン」(月曜～金曜 8:30～11:00 東京ローカル)になります。20代、30代女性をメインターゲットに、時代の流れの中での新しい考え方、感じ方、生き方のヒントなどを、様々な出来事やカルチャームーブ

メントとその主人公たちの言葉にみいだしていく、そうした企画趣旨をより極めながら、それを担うことができる出演者を新たに起用します。

【新出演者】



住吉美紀（すみよしみき）

1996年NHK入局、2011年3月退職。

「世界遺産の旅シリーズ」「日曜スタジオパーク」「サラリーマンNEO」「プロフェッショナル～仕事の流儀」「アートエンタテインメント～迷宮美術館」「ホリデー・ミュージック・ウェーブ（FM）」「FIFAワールドカップ」紅白歌合戦総合司会・・・まさに、2000年代のNHK看板アナとして絶頂期の中退職。1年の充電期間を経てTOKYO FMでのレギュラースタートとなります。

その他の平日ワイド番組に関しては、「シナプス」（月曜～木曜 13：00～16：00 東京ローカル）について、企画目的のより明確化を図ります。世の中の日々の出来事、変化の中でリスナーが抱く不安、悩み、迷い、期待…に寄り添いながら、Facebookなどの進化した2WAY機能を駆使してリスナーとともに考え、メールを送ることが出来る番組を目指します。

「シンクロシティ」（月曜～木曜 16：00～18：45 東京ローカル）は、東京の各エリアとの企画面での結びつきを強め、それぞれのエリアの生活者、勤労者からより高い支持をいただける番組を目指します。それに向け、都内近郊の大型商業施設、商業エリア等との協力関係の構築を行ってまいります。東京の各所に生まれる機運、現象、喜怒哀楽を人々の言葉の中にいち早く発見できる番組を目指します。

そのほか、月曜～木曜 20時以降には、中等教育で正規科目として導入される「ダンス」をテーマとした新番組、深夜 1時以降では日本レコード協会協力による世代を超えた良質音楽をテーマに音楽業界のキーマンたちが登場する新番組など、時代の環境変化をふまえた新企画を投入してまいります。

◎活動ご報告

- ・3月3日（土）実施『SCHOOL OF LOCK!』×高橋優 「もうひとつの卒業式 ～福島県 南相馬～」
- ・4月15日（日）EARTH×HEART LIVE 2012 について
- ・HelloSmile Project について

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○『SCHOOL OF LOCK!』の「もうひとつの卒業式 ～福島県 南相馬～」については、福島の方から聞き、とても素晴らしいと感じていた。生徒だけでなく、父母がとても喜んでいる。震災のことを忘れないでいてくれることがうれしい、と言っていた。今、これから先、小さい支援でもどのように永く続けていくかが問われている。

○高橋優が高校生に人気なのか。

■『SCHOOL OF LOCK!』の生放送中にリスナーからのメッセージをもとに曲を作ったこともあり、「リアルタイムシンガーソングライター」というキャッチコピーのとおり、今を歌えるシンガーとして10代に限らず人気急上昇している。

○大震災から1年をむかえる日に限らず、長きにわたって震災について細やかに扱っていることが感じられ、評価に値する。

○震災を忘れていない、という切り口で現地取材をするなかで、逆に「思い出したくない」という反感はないか？

■取材では、現地にスタッフが直接行って“質問する”のではなく“声をうかがう”という姿勢を心がけている。現地の人は比較的ラジオの取材に対して好意的な様子でほっとしている。

○ダンスをテーマにした番組、とはどんなものか。

■基本的には、モバイル機器で撮影した動画を番組に送ってもらい、Webで動画が見られる、ラジオ+Webのダンスコンテストの形態を考えている。

○そういった取り組みからも、TOKYO FMは単なるラジオ局ではなく、事業内容が多岐にわたったステーションであると感じられる。

議題2:番組試聴 (2番組 ダイジェスト 約15分)

《1》

【番組名】「中西哲生のクロノス」

パーソナリティ： 中西哲生

【放送日時】 2012年3月5日(月) 6:00～8:30

【番組概要】

東日本大震災から1年。

3月5日(月)の週、朝の情報番組「クロノス」では、発災時、今、そしてこれからという3軸から、震災孤児への文化・スポーツ支援プロジェクトを立ち上げた三枝成彰、マスメディアの原発報道に警鐘を鳴らすジャーナリストの上杉隆らのインタビュー、いわき市の水族館、アクアマリン福島館長の声や、国内の大規模災害時に迅速で効果的な支援を行うシビックフォース仙台支部の取り組みを追う企画をすすめています。

また、今の状況からより良い未来に確実に進むことができるよう、震災から1年が経った全国のリスナーの「こころ」の声、街の声を様々な面から紹介しています。

《2》

【番組名】「タイムライン」特集企画

＜原発・放射能に関する16の不都合な真実＞

【放送日時】 2012年3月5日(月)～8日間 18:45～19:45

【番組概要】

東京電力・福島第一原発の事故以来、次々に発表される様々な情報に翻弄され、誰の言うことを信じていいのかわからないという声を耳にします。

1年を経て、政府、関係者の「思考」が行き詰っているとされるこの機会に、原発、放射能に関して専門家、ジャーナリストの「真実」に耳を傾け、思考のきっかけとしたい、との企画です。

3月5日(月)はフリージャーナリスト今西憲之さん。福島第一原発の現場に昨年春から夏にかけて足を踏み入れ、複数回取材、その折のルポが話題となっています。

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○『クロノス』でパーソナリティー中西さんが食べもののことを話す場面で、心の声が出ていたと感じ、好感を持てた。

○震災後一年、世の中のメディアリテラシーがあがったかという、疑問だ。高校生が、大手メディアが言っていることだけでなく、複数メディアから判断しなければいけない、と発言している様子を見て、そのとても難しいことを指南してあげることこそ、メディアの役割だ、とあらためて感じた。世の中が“みんなの意見”に左右されないよう、メディアががんばらなければ、と思う。

○『クロノス』では、被災地の声だけではなく、東京にいる人の気づきを取り上げられており、身近で、共感できた。

○『タイムライン』では、正しいことはわからない、ということがはっきりしていて、諸見解の触れ幅が大きい中で、最後はどういう結論にするのがが気になる。

○『クロノス』も『タイムライン』も、番組の内容はよいと思う、難しいのは、瓦礫の問題ひとつとっても何を信じていいかわからない、ということだ。

政府によるはじめの発表が2転、3転したことで、もはや政府の発表することを信じられないという風潮。みなが何を信じていいかわからない中で、正しいこと、を提示することはとても困難である。

○自分の番組で、原発推進を理屈で説明してくれる人を探し、出演依頼をしていたが、非常に困難な交渉だった。そんな中だからこそ、たとえば原発推進派 / 反対派の両極端な見解を交互に扱って、リスナーに判断させる、ということをしてもいいのではないか。

■『タイムライン』では、基本的に、2つに見解が分かれる問題については、双方の見識人にそれぞれ出演いただくようにし、情報に偏りの無いようにしている。

過去に六ヶ所村の一件があって原発問題をとりあげた際にも、推進派 / 反対派の双方に出演してもらった。

○『クロノス』『タイムライン』の両企画について、多くの人々の声、様々な見解、感じ方を淡々と拾い続けることにこそ意味があり、この時期にこの努力は高く評価されるべき。マスメディアの今後の報道指針を探るにあたっても、貴重な資料になると思う。

○被災地の「今の心の声」を引き出せていると思う。しかし、この「心の声」は時間が経

つにつれて変わっていくこと、声を出す人が移り変わることをマスメディアは忘れてはいけない。

『タイムライン』の“16 の不都合な真実”がどんなものか、この先もきちんと受け止めていこう、と、ひとりのリスナーとしてとても興味を持った。

難しい問題にこそ真面目に取り組む姿に敬服する。

- 放射能の問題は、本当にメディアで扱いにくい、ということはたびたび感じる。瓦礫受け入れに関しても、被災地の心の声を伝える一方で、放射性物質は持ち出すべきではないという意見も拾うべき。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「JUGLIS RUN GIRLS SUNDAY」
3月25日(日)5:00～7:30 放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会を、4月3日(火)に開催することを決めた。

以上